



名古屋市立大学病院 救急災害医療センター

Nagoya City University Hospital Emergency & Disaster Medical Center



ヘリポート

地上から41.4mにあり、中型ヘリコプター(総重量11t程度)の離着陸が可能です。緊急の患者搬送のほか、災害時の広域搬送や当院病棟・中央診療棟ヘリポートとの併用による同時多機搬送にも対応します。



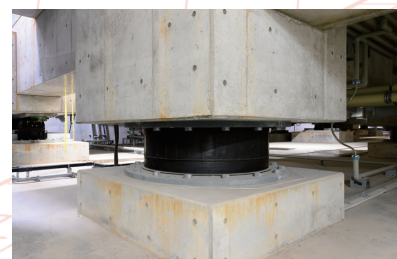
災害時仮設病床

災害時に3日間で約300人の被災重症患者の受け入れが想定されるため、仮設ベッドを配置できる病床設置スペースを確保しています。



スロープ

災害時のエレベーター停止や復旧の遅れに備え、1階から屋上ヘリポートまでを全長約700mの1本の通路でつないでいます。他の病院に類を見ないこの通路は、緩やかな勾配によりストレッチャー移送も可能です。



免震構造

想定される巨大地震時には、免震装置が建物の揺れを軽減し、揺れによる医療機器の損傷などを防止することで、災害拠点病院として必要な診療機能を維持します。



未来へつなぐ

地域の命を、

Nagoya City University Hospital Emergency & Disaster Medical Center



— 病院長 挨拶

救急災害医療センターが始動します

病院長 松川 則之

当センターは三つの重要な任務のために名古屋市施策として建設されました。第一に、南海トラフ巨大地震発生時の最前線医療施設としての機能です。災害時においても、出産や人工透析など中断できない医療が提供可能な施設となっています。第二に、救急診療体制への寄与です。自宅・施設に暮らす高齢者の救急対応の重要性が厚労省地域医療施策として示される中、名古屋市立大学病院は6病院群となり、高度急性期から慢性期・回復期リハビリテーションまで医療を提供し、地域の病院とも密な連携をして医療を展開しています。第三に、医療人育成の機能です。今後、地域の皆さんに安心安全な医療を提供することを目指し、不断の努力をまいります。

— 救急災害医療センター長 挨拶

命を支えて人を育てる医療の拠点として

救急災害医療センター長 祖父江 和哉



当センターは、多様な部門を統括し、平時から災害時に至るまで高度急性期医療を安定的かつ継続的に提供する体制の構築を使命としています。国内最大級の初療室（ER）や集中治療ベッド、手術室、透析部門を備え、あらゆる急性期疾患に対応可能な体制を整えています。さらに周産期部門を併設し、いかなる状況下においても安全な分娩と新生児ケアを継続できる環境を整えています。また、多職種の高度専門職を育成する場としても積極的に活用してまいります。充実した臨床環境を最大限に活かし、あらゆる医療職における人材育成の推進に努めてまいります。地域の命を守り、未来へつなぐ存在として職員一丸となって邁進してまいります。



— 救命救急センター長 挨拶

安心と信頼を託される 救命救急センターを目指します

救命救急センター長 船越 拓

当センターは、小児から高齢者まで、また軽症から最重症まで、全ての患者さんに対応し得る体制を整えています。重症外傷、心血管疾患、中毒、重症小児疾患など、救急需要の全てに対応することを使命としています。国内屈指の設備を備え、迅速な評価・処置から高度集中治療まで切れ目のない救急医療を実践しています。また、多職種が緊密に連携し、24時間365日、病院一丸となって質の高い医療を提供することが私たちの強みです。さらに、名古屋市消防局と連携した24時間体制のドクターカーの運用により、病院前から診療を開始する体制を整えています。安心と信頼を託される救命救急センターを目指して、スタッフ一同、全力で取り組んでまいります。



— 災害対策医療支援部長 挨拶

地域の「最後の砦」となることを 使命とします

災害対策医療支援部長 山岸 庸太

南海トラフ巨大地震発生時に名古屋市の傷病者は最大で死者約6700人、重傷者約3000人と推計されています。標高16mに位置する当院は、最前線の病院になることが予想され、災害医療の中心を担う災害派遣医療チームDMAT (Disaster Medical Assistance Team)が当センターに整備されます。災害時は「自助・共助・公助」が重要です。是非、私達「公助」が介入するまで、皆様は「自助・共助」で生き残れるよう最善の行動をとって下さい。「公助」の場として救急災害医療センターが完成し、建物は確保されました。次は、全ての名市大職員が災害知識・技術の向上に引き続き努め、平時はもとより、災害時においても皆様の生命・健康を全力で守り、地域の「最後の砦」になることをお約束致します。

心に寄り添う、やさしさのかたち。

各フロアごとに軸となる「やさしさのイメージ」の創出をめざし、名古屋市立大学病院 救急災害医療センター全体で、「心地よい一貫性」と「ゆるやかな個性」、「安心感」と「やさしさ」を感じる空間表現を創出。



2F 救急部門

大 樹 | 身を寄せる安心感



3F 高度治療部門

陽 和 | 和やかな安心感



3F 透析部門

そよ風 | リフレッシュできる安心感



4F 手術部門

大 地 | 揺るぎなく温かな安心感



5F 集中治療部門

こもれ日 | 自然にふれる安心感



6F 小児部門

小 春 | 守られている安心感



6F 産科部門

ひだまり | やさしく支えられる安心感

B1F

Floor Concept
地下鉄との接続のフロア

Facilities

地下鉄連絡路 PET-CT検査

地下鉄駅と直結した通路を備え、天候の影響を受けることなくご来院いただけます。また、高精度な画像診断が可能なPET-CTを設置しています。



地下鉄連絡路



PET-CT撮影室



地下エントランスホール



待合室

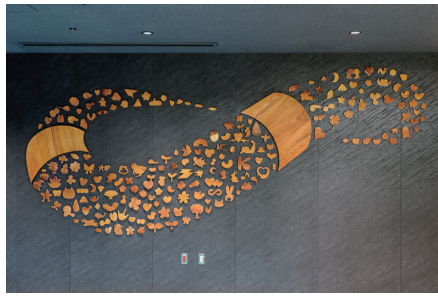


PET待機室

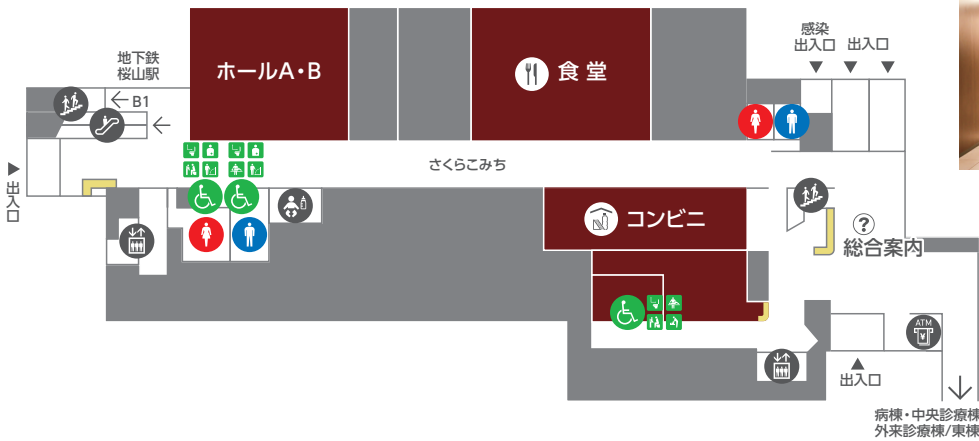
Facilities 総合案内 食堂 コンビニ ホールA・B 銀行ATM 連絡通路(さくらこみち)



コネクティングホール



総合案内をはじめ、食堂・コンビニエンスストアを完備しています。来院される患者さんやご家族が安心してお過ごしいただけるよう、利便性を重視したフロア構成となっています。



さくらこみち

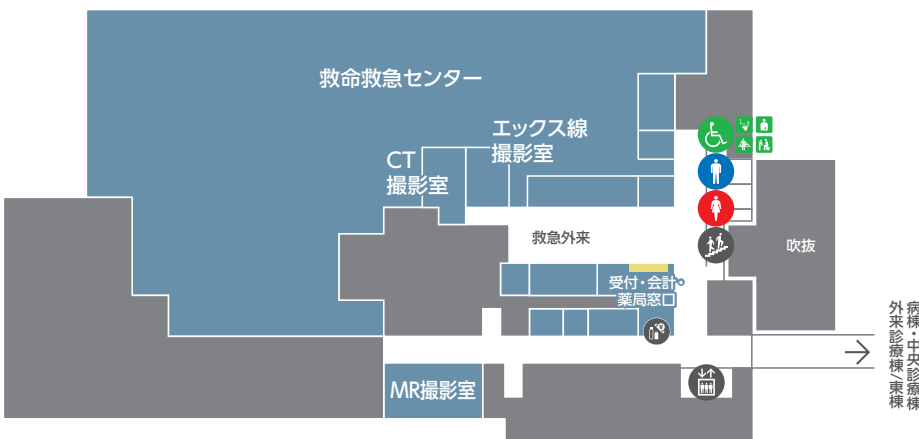


エントランスホール

1F

Floor Concept
患者さんサービスのフロア

Facilities 救命救急センター 救急放射線検査室 X線撮影室 CT撮影室 MR撮影室



救急車やドクターカーが到着するフロアになります。ハイブリッドERを中心に、先進的な画像診断装置を完備しています。外傷から内因性疾患まで、あらゆる救急疾患や感染症に迅速かつ的確に対応します。



救急ヤード



救命救急センター受付



ハイブリッドER

2F

Floor Concept
救命救急センターと検査のフロア



3F

Floor Concept 高度治療と透析のフロア

Facilities

血液浄化センター 救急・一般病棟 EHCU(救急高度治療室) HCU(高度治療室)

救急・一般それぞれのHCU(高度治療室)と血液浄化センターを設置しています。重症患者への集中的なケアに加え、大規模災害時にも対応できる透析・血液浄化体制を整えています。



血液浄化センター受付



血液浄化センター



透析機械室



HCU(高度治療室)

4F

Floor Concept 手術のフロア

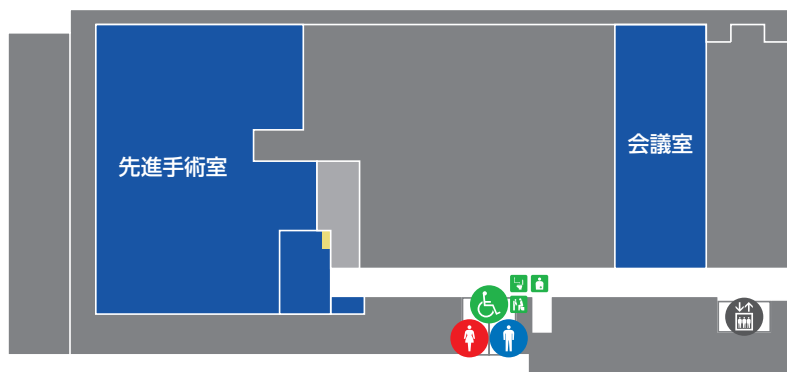
Facilities

先進手術室 会議室

ゆとりある広さと高度な機能を持つ手術室4室を完備しています。救急疾患に迅速かつ円滑に対応できる手術体制を整えており、緊急手術にも即座に対応します。また、平時は会議室として活用しつつ、大規模災害発生時には速やかに災害対策本部へと転換できる多目的スペースを備え、いかなる事態にも万全の体制で臨めます。



手術室

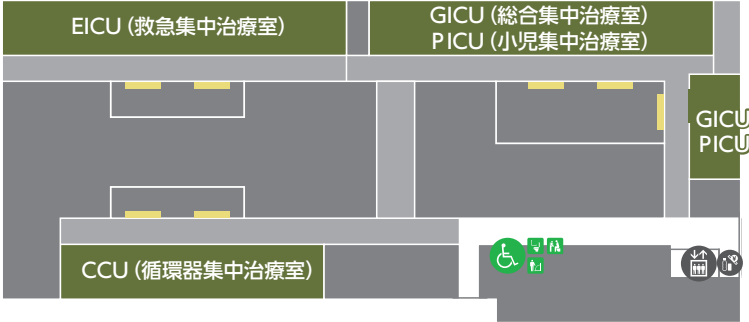


前室



手術ホール

Facilities
GICU(総合集中治療室) PICU(小児集中治療室) EICU(救急集中治療室)
CCU(循環器集中治療室)



24床を有する集中治療センターを設置しています。小児集中治療室も備え、小児から高齢者まで、あらゆる年齢層の最重症患者に対応できる体制を整えています。



スタッフステーション



GICU(総合集中治療室) PICU(小児集中治療室)



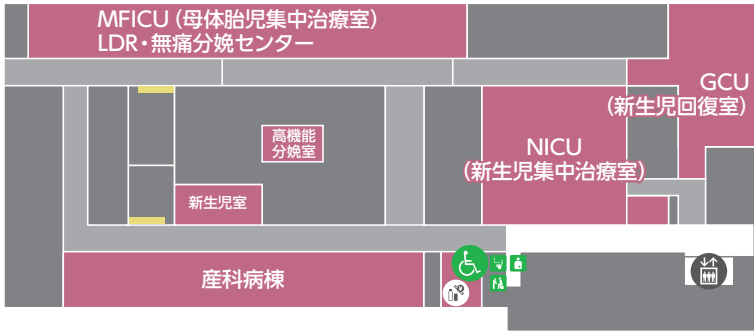
CCU(循環器集中治療室)

5F

Floor Concept
集中治療のフロア

Facilities
NICU(新生児集中治療室) GCU(新生児回復室)
MFICU(母体胎児集中治療室) LDR・無痛分娩センター 産科病棟

ハイリスク分娩を確実に受け入れ、安全な無痛分娩を提供できる万全の体制を整えています。充実したNICUを備え、母子ともに安心できる高度な周産期医療を一貫して提供します。



高機能分娩室



新生児室



LDR



GCU(新生児回復室)

6F

Floor Concept
出産前後の総合的な医療のフロア

地域の命を、
未来へつなぐ



NC 名古屋市立大学病院
救急災害医療センター

〒467-8602 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
TEL:052-851-5511

